カンボジア短信 ： 2014－№02 （1月上・下旬）

17. JAN. 14

小島正憲

1. カンボジア全土に広がる反政府運動とストライキ

1／10のカンボジア短信:№1における既報は、ほぼ正確であることが検証できた。それよりも今回確認できたのは、この騒動がプノンペン周辺だけでなく、カンボジア全土に広がっており、野党の救国党と労働組合上部団体との共闘の結果であるということである。野党の救国党は選挙の無効を訴え長期戦の構えであり、労働組合上部団体は最低賃金:160ドルを獲得するまで闘争を続けると宣言している。それが相互に補強しあった共闘の結果の、この騒動はしばらく鎮静化しないように思われる。

選挙と賃上げのこれまでの経過

カンボジアの野党の救国党は、昨年7月に実施された下院総選挙で不正があったとして、再選挙の実施を求め、すでに4か月間、議会ボイコットを続けている。救国党のサム・レンシー党首は支持者たちに、12／15からプノンペン中心部の「民主の広場」でマラソン集会を開始し、「再選挙の実施まで続けよう！」と訴えている。

12／24、カンボジア政府は、衣料工場労働者の最低賃金を現行の月額80ドル（約8300円）から、14年に95ドル、15年に110ドル、16年に126ドル、17年に143ドル、18年に160ドルにそれぞれ引き上げることになったと発表した。しかし一部の労働組合指導者は14年に直ちに160ドルに引き上げるよう要求している。政府側はひとまず2月に100ドルに上げる妥協案を出したが、これを不満とする労組の有力指導者は全国規模の抗議行動に発展する可能性に言及したという。

①プノンペン周辺の騒動

・カナディア工業園区

プノンペン市内のカナディア工業園区では、1／02～03の両日、ストライキを敢行し道路を封鎖する数千人の労働者に対して、鎮圧のため軍の治安部隊が出動し発砲したので、労働者を含む民間人4人が射殺され21人が負傷した。

カナディア工業園区には多くの工場が林立しており、生活環境はかなり劣悪である。この工業園区に立ち入ってみると、ストライキを敢行しようとする労働者の心情をよく理解することができる。1／13時点では、騒動は鎮まっていたが、工業園区内は閑散としており、騒動を嫌って、工場を離れ故郷に戻るという労働者たちの姿が多く見られた。

カナディア工業園区の近辺の商店や簡易宿舎なども、治安部隊の鎮圧のとばっちりを受け、かなりの被害を被っており、私が被害状況をカメラに収めていると、たくさんの人達が集まってきて、口々に治安部隊の横暴をののしり、壁に残っている弾痕跡を指し示したり、家の中に打ち込まれた弾丸や薬莢を見せてくれたりした。中には、「カナディア工業園区のオーナー陣の中に、軍関係者がいたので、工場に被害が及ばないようにと軍が出動したのだ」と言う人もいた。また「この工業園区には、韓国系企業が多く、それらの企業が韓国政府に働きかけ、カンボジア政府を動かし、軍を出動させたのだ」と物知り顔で説明してくれる人もいた。

《カナディア工業園区　門前》

《治安部隊に襲撃された簡易宿舎》

《簡易宿舎に撃ち込まれた銃弾の薬莢》

・プノンペン SEZ

1／03、カナディア工業園区の騒動が、日系企業が多く入居しているプノンペンSEZにも飛び火。SEZ外部から労働者が押し入り、投石などにより入り口付近の事務所を壊した。SEZ ではただちにゲート閉鎖し、SEZ 内の工場の稼働も停止した。以後、3日間ストップ。その後ゲートに有刺鉄線の臨時閉鎖門を装備し警戒。

それでもこのSEZのもっとも奥にあるミネベアの工場に、暴漢が数名、バイクで乗り付け投石し、ガラスなどを壊したという。なぜミネベアだけが狙われたのかは不明。

《SEZの門に装備された有刺鉄線付き臨時可動門》 →

②コンポンチャム

プノンペンから北東へ、国道7号線を車で4時間ほど走ったところに、コンポンチャム市がある。この地の代表的な台湾系縫製工場の曼哈頓工業園でも、昨年末の12／24～今年の1／03までストライキが行われた。この工場には1000名の従業員が勤務しているが、全員がストライキに参加し、工場を出て就業しなかった。また一部の従業員は国道7号線を、毎日1～2時間、数日間にわたって封鎖したという。この工場は1999年創業で、医療関係者の白衣などを縫製しており、経営も安定していて、今までなんの問題もなかったという。工場の門には、ストライキの扇動者4名の名前を記した会社側の訴状が貼り出されていた。

③バベット

プノンペンから南東へ、国道1号線を3時間ほど走ったところに、バベット市がある。ここにはマンハッタンおよびタイセンという立派な SEZ があり、その中で日系を始めとして多くの工場が稼働している。この地のマンハッタン SEZ では、昨年の12／13～30まで約2週間にわたってストライキが敢行された。前半の1週間は環境改善をもとめるものであったが、後半は賃上げ要求に変わっていったという。このマンハッタン SEZ の労働者の動きが、近くのタイセン SEZ にも飛び火しそうになったので、タイセン SEZ の経営者は工場を午前中のみ稼働させるなどの対策を取って様子を見ていたが、マンハッタン SEZ の労働者がタイセン SEZ へ同盟罷業をよびかけ、SEZ 内に乗り込み実力行使に及んだので、12／18から12／30までタイセン SEZ 内の工場も稼働を停止した。マンハッタン・タイセン両 SEZ の労働者たちは、国道1号線を毎日1～2時間、3～4日間封鎖した。

④コッコン SEZ は騒動なし

プノンペンから南西へ、車で5時間ほど走ったところに、コッコン SEZ がある。この地のナイスの工場は、**昨年後半にプノンペンで発生した縫製工場労働者による賃上げデモは、コッコン工場への影響はほとんどなかった。**ナイスの工場は、タイの慢性的な労働力不足と最低賃金引き上げを受けて建設。昨年はスポーツ衣料を中心に約 200 万着を生産した。今年はサッカー・ワールドカップ（W杯）ブラジル大会効果で世界的にスポーツウエアの需要が拡大する見通しで、コッコン工場での生産量は 250 万～300 万着に増える見込み。コッコン工場は2年ごとに施設を拡張して8年後に従業員を1万人以上に増やす計画。今年は予定通り1回目の拡張に着手する予定。

《コッコン SEZ のナイスの工場》

2. カンボジアのデモ騒動、「2億ドル損害」

1／06、カンボジア縫製協会（GMAC）のバン・スー・イエン会長は、プノンペン市内のホテルで記者会見し、「賃上げを求める縫製労働者の最近 50 日間の騒乱で、業界は2億米ドル（約 209 億円）の損害を被っている。海外からの注文も今年は 20～30％減るだろう」との見通しを示した。首都プノンペンのベン・ストレン通りで3日、賃上げを求めたデモで、投石した縫製工場労働者らに対し治安部隊が発砲。5人が死亡し、20 人以上が負傷した事件については、「法と秩序を維持するために治安部隊が介入したのは妥当だ。死亡したのは悲しいことだが、非合法にデモをし、工場の施設を傷つけた労働者側に責任はないのか。こんな騒動がなかったら、治安部隊の介入もなかった」と述べ、事態の責任は労働者側にあると強調した。GMACのケン・ルー事務局長も5日、「治安部隊が投石者に対し殺傷する行動に出たのは、完全に妥当なこと」と語っていた。

再録 ： 1／10 既報

1. 速報：カンボジア情勢緊迫か　※ただし未検証のため、検証するため私は1／08からカンボジア入り。

・1／02、プノンペン市内で、ストライキ中の労働者とそれを支援する僧侶たちと、警官隊が衝突し、15人以上が負傷。
・1／02午後、プノンペン郊外のカナディア工業団地で、賃上げを要求してストライキを行っている縫製工場労働者らが Veng Sreng 通りで警官隊と衝突。労働者たちは道路をレンガなどで封鎖し、焚き火をして抗議行動を行った。深夜、約500人の治安部隊が出動し、労働者を排除。

・1／03朝、カナディア工業団地近辺で、労働者たちが再び道路封鎖。近所の病院の窓を割ったり、備品を壊すなどの行動を起こした。午前10時、労働者たちが治安部隊に投石を始め、治安部隊が応戦し発砲。地元人権団体によると、少なくとも4人の民間人が射殺され、21人が負傷した。数千人の労働者らが工場前の道路を封鎖し、これを排除しようとした警官隊と衝突。労働者側も棒や石、火炎瓶などで武装して応戦した。地元人権団体は「民間人に対する過去15年で最悪の国家暴力」と当局を強く非難する声明を発表した。
・1／03、プノンペン経済特区内の日系工場の多くが、操業停止。経済特区の入り口に暴徒侵入防止用のバリケード。
・1／04、カンボジア治安部隊は、プノンペン中心部にある「民主の広場」に集まっていた数百人の反政府デモ隊を強制排除した。地元メディアによると、治安部隊は僧侶や女性を含むデモ隊に対し無差別に暴行を加えたという。
「民主の広場」では、昨年7月の総選挙で大規模な不正があったとして、与党・人民党の勝利を認めず議会をボイコットしている最大野党・救国党が12月半ばから連日、フン・セン首相の辞任などを要求してデモを開催。賃上げを求めてストに入った縫製工場労働者らも加わっていた。
・1／04、野党：救国党は1／05に予定していたプノンペンの「民主の広場」での抗議集会を中止。
・1／04、プノンペン地裁、野党救国党サム・レンシー党首とケム・ソッカー副党首に暴動を扇動した疑いで出頭命令。
・1／06、野党救国党がフン・セン首相を国際刑事裁判所（ICC、オランダ・ハーグ）に告訴する準備を進めている。治安部隊がプノンペン郊外のカナディア工業団地でストライキ中の縫製工場労働者らに発砲し死傷者が出た3日の事件をめぐる責任を問う。
・1／06、プノンペン市中心部に隣接するボンコック湖畔地区の居住地からの強制立ち退きに抗議し、集会を開こうとした5人の女性活動家が一時拘束された。5人は拘束されている仲間の活動家の釈放を求めて、ボンコック湖に近いフランス大使館の前で集会を開こうとした際、当局側によってトラックに押し込まれた。約8時間拘束されたあとに解放されたが、抗議活動はしないよう警告されたという。

3. 北朝鮮、カンボジアに博物館＝外貨稼ぎ、関係強化狙いか

1／08、北朝鮮が1500万ドル（約15億7000万円）を投入し、カンボジアのアンコールワット遺跡に近いシエムレアプで博物館の建設を進めていると報じた。名称は「グランドパノラマ博物館」で、カンボジア政府が土地を提供、北朝鮮は建物の建設費を拠出しているという。建物はほぼ完成しているが、オープンの日程は未定。クメール帝国時代の様子を描いた幅120メートル、高さ13メートルの大壁画や、3次元（3D）映画館が売り物。

4. 最近の外資の進出状況

・タイの化粧品直販のベターウェー、カンボジアとラオスにも事務所

タイの化粧品「ミスティーン」を直販するベターウェー（タイランド）は、近隣国での事業展開を加速していく方針だ。近く、カンボジアとラオスの地元企業と共同で、両国に事務所を新設する。

・三井住友銀、カンボジアの地元銀行と提携強化

1／14、三井住友銀行は、カンボジア最大手のアクレダ銀行（本店プノンペン）との業務提携を強化すると発表した。

・タイ消費財サハ、カンボジアの投資会社に出資

1／14、タイ消費財大手サハ・パタナピブン・グループのサハ・パタナ・インターホールディング（SPI）は、カンボジアの投資会社ナナン・カンボ・ソリューションに資本参加したと発表した。

・ワタミ、プノンペンへ6月に進出

1／15、居酒屋大手のワタミは、子会社のワタミインターナショナル（香港）が今年6月にプノンペンに同国第一号店を開店することを決めた。6月にオープンするイオンの「イオンモールプノンペン」に出店し、フランチャイズ方式で展開する。ワタミは今後も東南アジア進出を活発化していく考え。

以上